「お婆んお早う」
「オ、與次さんか毎日〳〵能う精を出しなさるな、たまには一日位ひ休んでやつたら何うやな」
「お婆ん私もたまには休たいが日和になると脊中の太夫が風呂敷を私の傍へ持つて來て商賣に行こ錢儲けに行ことロでは云はんがなんと可愛もんじやないかいな、太夫に引かれて追出ますわいなお婆ん」
「マアさようかいな、人間に三筋毛のたらん畜生でさへ錢儲けに行きますのに內の極道は何と云ふ奴でござります、今頃まで寢くさつて」
「お婆ん息子はまだ寢てるのか、起して仕事に遣りんか職人が今頃まで寢てると云ふ事が有るかない」
「ハイ起しますと私に喧嘩を吹かけます」
「ナンや親に喧嘩を買ふのか、そらお婆んが甘いよつてにや、私が起したげる」
「イヤ與次さんほつといとくなはれ、モシ貴郎に喧嘩を吹つかけて傷でも附けましたら濟まへん」
「お婆ん何を云ふね、私に手を掛けたら私が承知しても脊中の太夫が承知せんで、お前處の息子の顔へ搔き附いて顔に傷をつけるで」
「例へ悴の顔に傷がつきましても仕事に行て吳れさいしましたら」
「フムよくせきの事や、可愛息子の顔に傷がついても大事ないと云ふのか、心配しいな、私が起して

遣る、お婆ん其處で見てや、それ太夫降りた、これから此處の息子を起すね解つてるか、モシ此處の息子が私に指一本でも差へたら顔へ搔き附いて遣れよ、アハハハハ」
「これ源やん起きて仕事に行きんか、職人が今頃まで寢てると云ふ事が有るかいな、なんやフムフム目が痛い、そら夜遊びが過ぎる依つてにや、起きて遣り」
『おきやるかめいたや、めいたやなア――、ウャ源さん、イヤ源さんイヤ日天さんがお照しぢや、時間何時や知らんか、八時三十分廻つてる近所の車屋も關東煮こんにやく屋も飴賣豊年屋も皆々錢を儲けに行てるのにふんずりかいて寢て居るとは冥加が惡いで音無しう早起きや、源さんイヤむこいき姿が腕力な、イヤ腕力な、イヤさりとはさりとはノウョホあろうかいな、けんかなぞやめうかいな、品行の宜い事好んで母者人に安心さしやア、、これェ――』
「これ〳〵〳〵、それ見やんせ餘りこなさんの起きよが遲いに依つて母者人が顔を眞赤にして氣をもんでいさんすわいな」
『これ、イヤこれ〳〵〳〵〳〵行てやろ行てやろ、ノホョホョホェ仕事場へ鉋ナゾ持とかいな、勉强第一身の爲母者人を大事にしいやア、これ――』
「これ〳〵足で蒲團を差し上げて居ると云ふ事があるかいな、じらさずにほんまに起きて遣らんせ」
『イヤそうぢや、そうぢや〳〵〳〵〳〵やア――そこで母者人が嬉こんだものだよ、よろこぶ、よろ